

現状

課題

「いじめ防止に向けた取組」の強化

提言1

隠れた重大事態の洗い出し

法のいう広範ないじめの概念や重大事態の認定についての理解が不十分であることから、「隠れた重大事態」が潜在している可能性がある。

不登校が30日以上継続している事案については、法のいう広範ないじめが関与している可能性を念頭に、本人や家庭の状況を確認し、原因を把握する必要がある。

提言2

不登校重大事態への対処

隠れていた重大事態を把握した場合、学校または学校設置者は第三者による調査を行う必要があるが、相当数に及ぶ可能性がある隠れた重大事態全てに、十分な調査を行うことは難しい状況となっている。

不登校重大事態を機動的に調査したり、実効性のある支援を行ったりすることができるようにするため、人的資源を拡充・補強する必要がある。

提言3

いじめ抑止に向けた取組の強化

「いじめはどの集団でも生じうる」、「いじめに至りそうな心と向き合う」等の考えに基づいた「抑止」や「対処」に力点を置いた子どもたちに対する指導が十分行われていない。

日々の生活の中での個人の観察や集団内での人間関係のアセスメントを行うとともに、児童・生徒自身の気持ちの整理の仕方を扱う活動を取り入れる必要がある。

提言4

SOSの受信力・発信力の向上

教員や保護者等に気付かれない中で、辛い気持ちを抱えていても周囲にSOSを出しにくい状況になっている児童・生徒が存在していると考えられる。

児童・生徒にとって、安心できる学校環境をつくり、「困ったときは周囲を頼ってもよい」という安心感を醸成することで、SOSの発信力を高める必要がある。

提言5

マルチチャンネルによる「つながり」の形成と組織的対応の強化

「誰かと・どこかと・何かと確かにつながっている」という感覚をもてず、学校関係者と十分につながることができていない児童・生徒がいる。

専門家等を含めた「チーム学校」として組織的にケース対応するとともに、事態の解明や改善を目的とした、第三者的視点を導入するような体制を強化する必要がある。

提言6

SNS教育

SNSを含むネット環境に関して、児童・生徒に知識として伝える機会は設けられているが、実践レベルの理解までに深まる場になっていない。

企業や団体の協力を得て、SNSのメリットを最大化し、デメリットを最小化するスキルを実践的に児童・生徒が体得できる教育を推進する必要がある。

提言7

生と死の教育

「生きることの意味」や「死ぬことの意味」等について、児童・生徒がそれぞれの人生と重ね合わせ、向き合って考える機会や取組が道徳の時間以外には十分行われていない。

学校、家庭、地域等において、大人と子どもが共に「生と死」について、語り合える機会を道徳授業地区公開講座以外にもつくっていく必要がある。

提言8

「いのちを考える日」の制定

本市が制定した「いじめを許さないまち八王子条例」の趣旨や思いを市民全体で確認できる機会がない。

市教育委員会が主体となり、「いのちを考える日」を制定し、市民全体で「いのち」について真摯に向かい合える機会を設定する必要がある。

学校に対する支援

不登校の続く家庭へ訪問し支援をするなど不登校の原因把握や個々のケースへの実効性のある支援を行うためのスクールソーシャルワーカーの増員を前倒しする。【提言1・2】

学校での指導の範囲を超える対応困難な問題などに法的な助言を行うためのスクールロイヤーの制度を創設する。【提言5】

「学校心理学」の専門的知識と技能に基づく知見などをスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーに指導助言するための学校心理士スーパーバイザーによる相談体制を構築する。【提言4・5】

児童・生徒の学校生活満足度の把握など、個別支援や学級改善に役立てるため「楽しい学校生活を送るためのアンケート(Q-U)」を実施する。【提言3】

面談や声掛けなどで児童・生徒に相談できる大人が1人でもできるように、「児童・生徒が相談できる大人に関する調査」で実態を把握する。【提言4】

児童・生徒の本音や思いを確認するなど「隠れた重大事態」を見逃さないために、「長期休業日前、長期休業日終了前の児童・生徒の状況把握調査」を実施する。【提言1】

家庭での気づきを把握するなど、子どもの些細な変化を見逃さないために、「子ども見守りシート」を活用し、学校と家庭の連携を強化する。【提言1】

子どもに対する支援

小学校5年生・中学1年生  
スクールカウンセラーによる面談を実施することで、児童・生徒の状況を把握するなど「相談すること」への抵抗感を軽減させるために全員面接を継続する。【提言1・2・4・5】

小学校6年生  
SNSの適切な使い方について地域・家庭の共通理解を図るきっかけにするなど、実践レベルの理解を深めるための情報機器会社によるメディアリテラシー教育を実施する。【提言6】

中学校1年生  
ソーシャルスキルを向上させる取組を指導や支援の場に取り入れるなど、児童・生徒自身が自ら気持ちを整理ができるようにするため、「いじめ防止プログラム」やソーシャルスキルトレーニングなどの取組を推進する。【提言3】

小・中学校 全学年  
「いじめを許さないまち八王子市条例」の趣旨を伝えるなど、「学校・家庭・地域等とともに「いのち」について真摯に向かい合える機会とするため、「いのちを考える日」を制定する。【提言7・8】